

東部地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会

④大町 議事要旨

記

- 日時 平成26年6月14日(土)14時00分～15時00分
- 場所 市役所第4庁舎3階第7会議室
- 次第

1. 市長からの挨拶
2. これまでの経緯について
3. 災害危険区域について
4. 第2種区域の復興事業の進め方(条件付きで住宅が建てられる区域)の復興事業の進め方について
5. 意見交換について

残る建物の側溝を新たに入れて、かさ上げになる道路、深型の側溝とつなぐという絵が出ていたが、大雨が降ったときに逆流してくる心配はないか？

→ これは略図であり、水位が上がってくれば逆流するのではないかとご心配されると思いますが、しっかり対策をしたいと思います。1軒ごとに、詳細設計、調査をした上で逆流しないような形で造っていきたいと考えています。

今、大只越の仮設に住んでいるが、この復興住宅が工事の遅れなどで仮設から出る時期と食い違いが出るのではないか？ 仮設に住んでいる場合、どこかにまた引っ越すことになることが一番の心配だ。

→ 大只越の復興公営住宅の建設は、仮設住宅がなくなったあとに建設しますので、入居者がいるうちの着工はありません。

新聞を見ると、大只越での災害公営住宅の着工が一番早い。これはあくまでも参考なのか？

→ 順調に工事を進めるつもりで全力でやっていますが、仮に今後、例えば土から不発弾が出るなどで遅れる場合は、仮設住宅もそれに合わせて集約時期をあとにずらすつもりです。

ただ、仮設住宅の集約にお願いがあり、民間から借りている土地を返さねばならない、あるいは仮設住宅から出た方が多く、数人のため生活しづらい状況になったときは、なるべく回数を少なく、かつ皆さんの希望に合わせた形にしますが、仮設から仮設への転居をお願いするかもしれません。

復興住宅が遅れた場合は発表してほしい。常に我々が知りたいのは何で遅れているかであり、それを言ってほしい。

→ 詳細な情報提供をするよう努めます。

釜石の震災復興事業は県内で屈指の投資であるとマスコミ等と言われており、湾口防波堤、横断道・縦貫道も国家事業でかなり多く、フロントプロジェクト 1 のような大型公共事業も多いほか、市民に身近な復興住宅も東部地区で 12 棟できるという話だ。

東部地区の説明会に出た言葉だが、「不足分は民間の買い上げ、借り上げをやります」との話が出た。これは釜石市の税収につながるので、今後市民はどんな見方をすればよいかという心配があり、見通しなりコメントが聞きたい。

2 つ目。震災前に、各町内会宛に空き地対策調査をやり、途中で終わった経過があるよう記憶している。空き地調査を行い、今どういう状況なのか？ この釜石市内には急傾斜地に該当する場所に結構住まいが残っている。特にアパートも多い。そういう方々に対する、この空き地対策事業はどのように取り組まれ、今どうなっているのか？

(副市長)：被災した方々に普通の住まいを提供することが、最優先されるべき一番の課題だと思い、力を入れています。また、併せて、釜石の 10 年あるいは 100 年後を考えることも市役所の仕事であると考えています。

具体的には、5 年後 10 年後、仮に釜石の人口が減る中で空き家がたくさん出て、その空き家をメンテナンス、修繕するお金が市役所にないような状態になってはいけないという問題意識を持っており、ちょっと先の見通しの計算も同時に進め、市役所のホームページで公開をしています。

結論から言いますと、釜石には古い市営住宅がたくさんあり、今後 5 年先、10 年先には何戸壊すということと併せて、復興公営住宅を何戸造り、そのプラスマイナスで釜石はどうなるかを同時並行でやっており、5 年後 10 年後の釜石は目も当てられないということには絶対なりません。

また、東京オリンピックばかりという話もありましたが、今は被災地の復旧、復興が最優先ということでやっています。それでもなお工事が遅れるという事態が生じて不都合が出たら、「こういう理由で遅れてしまいました、申し訳ありません、このぐらい遅れます」という情報はしっかり届けたいと思います。

(小友技監) 空き家調査のことだと思いますが、引き続き調査した結果を集約した上で、空き家の条例設定に向けて動いています。震災後はかなりの数の空き家が減って有効活用されているという認識も得ていますが、古い空き家は依然として存在しますので、その辺はこれから安全に管理するため条例制定に向けて、担当課が動いています。

空き家は古いアパートばかりではなく、国とか県とかから譲り受けるような建物がいっぱいあり、かなりの空き家が増えている。そういうものの活用をなぜしなかったのかに対する対策。それから、物価が高くなっており工事費も高くなっていると言われるが、見積りの差が出た場合、本来ならペナルティが出るはず。新聞等によると、天神町・小白浜併せて7600万円の市税が投入されたとあるが、無駄遣いと映るので、もう少し厳しく対応すべきことではないか？

それから、今さまざまな建物の使い方がされていると言うが、実際にどういう調査をやっているのか？ どういう空き地がどの地域にあるのか把握しているのか？ 今、災害に遭った方々は住まいを求めて自分たちの生活で大変苦勞している。今だったらリフォームして不動産会社が整備して結構あるのではないかと。そういう調査もきちんとやって市民の前に公示すべきであり、重ねてお答え願いたい。

釜石の事情を踏まえて、急いでやること、どうしても長期になる部分があり、この見極めも今のうちに示唆してほしい。今、無理して何でも造ればいいみたいな感じではなくて、もう少し年月を費やしながらか計画的にやって、例えば就業問題、高齢化社会問題、医療難民・介護難民の対策も急務も含めて、若い者につながる、未来を見いだせるような施策を頂戴したい。

→ ご意見をしっかり受け止め、取り組みます。

(施工、詳細設計を担当する中央ブロック共同提案体メンバーの紹介)

(市長) 今日本当に皆さん、ありがとうございました。何点か貴重なお話をいただいたわけですが、まず、先ほど心に響いたのは、もう少し詳しく説明をしてほしいということです。今まで遅れたのは、端的に言うとやはり土地の確保が非常に難しかったわけで、やっと復興公営住宅を建設する場所が特定でき、今日こうした形で説明するまでになりました。ただ、何らかの事情で遅れることもあり得ますので、その際はきちんと説明をさせていただきます。今日こういう話があったことを来ていない方々にも手紙を出しますので、ぜひ家族で、あるいは隣近所の方々と見ながらいろいろと情報交換を、自分なりに理解する努力もしていただければ有難いと思います。

今日は大町地区でしたが、さらに関係者ごとの集まりも行いたいですし、あるいは、もしグループでもう少し詳しく聞きたいという方がいましたら遠慮なく言っていただければ、きちんと説明させていただきたいので、よろしく願います。

先ほどの将来どうなるんだという話の答えですが、復興住宅はできる、自力再建はできても、地域経済がうまく回っていかないと、これもまた大変なことになるので、我々としては、ぜひ従来にも増して釜石にたくさんの方が来るような、あるいは民間アパートも空き室がないぐらい、被災者の方が出たら、次はそうではない方が入るような経済活性化も図らねばということで、短期・長期で一生懸命頑張っていることをぜひご理解をいただきたいと思います。

その際、高齢者の皆さんがたくさんおられます。一刻も早く皆さんの住まい

の再建をせねばなりません、同時に次の若い世代の方々が「やっぱり釜石は魅力あるまちだ」と思ってもらいたい。あるいは、釜石にそのまま住んでほしい、あるいはまた全国からIターン、Uターンで戻ってきてほしいことも考えねばならないと思っています。

今日は、今までの経過と今後の事業の展開についての説明でしたが、何か質問があれば、また、こうした説明会あるいはまちづくり協議会を開催したく、新しい大町のまちづくり、釜石のまちづくりに一緒になって努力をさせていただきます。ありがとうございました。

以上